26 昔も今も 交通の要衝

江戸時代には、西国街道が通り、淡路島や四国への海上ルートがあるなど、明石は交通の要衝として多くの人々で賑わいました。現在も、鉄道網のほか、バス路線、旅客船航路、道路網が発達しており、なかでも明石駅（写真）の乗降客数は、JRが1日約10万3000人で県内3位、山陽電車が沿線で最多の約2万4000人を誇ります。また、コミュニティバス「Taco（たこ）バス」により、JR西明石駅以西の鉄道駅と地域を16路線で結ぶなど、市内交通網の充実も図っています。

文化の薫るまち

太古の昔から人々が暮らし、源氏物語や平家物語の舞台となった明石は、今も市内のいたるところに文化財が残るまちです。また、古くから秋まつりが行われるなど、古き良き文化が今もまちのあちらこちらで見られます。

地域で守り、受け継がれてきた無形文化財

27 海の安全と豊漁を祈る おしゃたか

今から約1800年前に始まったといわれ、市内で最も古い神事のひとつ「おしゃたか」。若者らが海に入り、長さ約1.5メートルの「おしゃたか舟」を「おしゃたかぁー」と叫びながら投げて泳ぎ、海の安全と豊漁を祈る神事です。「おしゃたか」とは、明石の方言が訛ったもので、「神様よくおいでくださいました」という意味。毎年7月の第3日曜日開催。明石市指定無形文化財に指定されています。

28 400年以上受け継がれる伝統の技 大蔵谷獅子舞

だんじりの屋根で荒々しく舞い狂い、おたふくやひょっとこ、天狗と絡みながら、繊細かつ可愛らしく戯れる獅子舞。江戸時代から続く伝統の技は、兵庫県指定無形文化財に指定されており、毎年10月の第1土曜日に行われる稲爪神社（大蔵本町）の宵宮祭で披露されています。

29 大蔵谷の民俗芸能 牛乗りと囃（はやくち）口流し

7世紀初め、日本に攻めてきた異国の鉄人軍を滅した神を祀ったのが神社の始まりとの伝説にちなんで、白粉を塗り、鉄人に扮した男性が、口上を述べながら牛に乗り、神社の境内を往復する神事が牛乗り（写真）です。また、江戸時代から伝わり、編み笠を被った浴衣姿の男性が扇子で口を隠しながら唄う神事が囃口流しです。いずれも明石市指定無形文化財に指定されており、10月第1土・日曜日に行われる稲爪神社の秋まつりで行われます。

30 矢を放ち、豊作・豊漁を祈る 藤江の的射

300年以上の歴史を持ち、御崎神社（東藤江）に祀られる山王権現が、弓矢を用いて悪霊を退治したという「藤江の伝説」にちなんで行われる的射。裃姿の大前や弓立衆とよばれる5人の氏子が、30メートル先の的に21本の矢を射って、藤江村に風水害をおこす悪霊を払い、豊作・豊漁を祈る神事です。明石市指定無形文化財に指定されており、毎年1月中旬ごろに行われます。

31 稲作の無事と豊作を祈る おくわはん

水質が良く、農業が盛んで、江戸時代に新田開発が進んだ魚住町清水地区。毎年6月下旬、田植え後に、農家の講（こうおや）親達が羽織袴姿で、桑の木製の鍬「おくわはん」と金色の御幣（ごへい）を持って水田を回り、豊作を願う珍しい神事です。明石市指定無形文化財に指定されています。

明石の宝から日本の宝へ 5件の国登録有形文化財

32 岩佐家住宅

市内初の国登録有形文化財。明治37（1904）年に建てられた住宅。主屋は木造2階建てで、外壁を黒漆喰塗とする塗屋、起り破風とともに重厚な外観を見せます。土蔵は木造2階建てで、外壁は白漆喰塗、屋根は本瓦葺の切妻造となっています。

33 中崎公会堂

明治44（1911）年に建築された市内最古の公共施設。千鳥破風の四方屋根や鬼瓦が特徴的で、奈良・鎌倉時代の和風建築様式を取り入れています。こけら落としに文豪夏目漱石が招かれ講演しました。平成23（2011）年には創立100周年を迎え、現在は、スポーツ活動や文化活動に利用されています。

34 中崎遊園地 ラヂオ塔

昭和12（1937）年、ラジオが高価だった時代に、その良さを伝え、ラジオの受信契約を増やすために全国に約460基建てられた「ラヂオ塔」。中崎遊園地にあるものは、国内で20数基しか現存していない内の貴重な1基です。

35 旧小久保跨線橋

明治23（1890）年にドイツで製作された貴重な遺構。九州鉄道株式会社（現在のJR九州）が、鉄道橋として使用していたもので、昭和2（1927）年に明石操車場内（現在のJR西明石駅）に小久保跨線橋として転用。平成6（1994）年に新跨線橋が完成し、同7（1995）年に、上ケ池公園（小久保）に移設されました。現在は、遊歩道の一部として活用されています。

20 明石市立天文科学館も国登録有形文化財です。

36 その日獲れた魚を夕食に 昼網

深夜から早朝にかけて水揚げされた魚介類が、午前11時30分から卸売市場分場（本町）や明石浦漁業協同組合（岬町）などでセリにかけられ、昼過ぎには魚の棚商店街などで生きたまま並ぶ昼網。生産地と消費地が近い明石独特の文化で、新鮮で美味しい明石の「まえもん」といわれる所以です。